



阿部正宏

宮城支部・常任幹事

競輪選手をしていて、このような施設をサポートしていることに誇りを感じます。

今回は宮城支部・常任幹事の阿部正宏選手に、重度心身障害児(者)施設「エコ療育園」を訪ねて頂きました。競輪補助事業で導入されたレントゲン透視撮影装置だけではなく、施設の内部を見学させて頂き、その感想、また今の宮城支部についてお伺いしました。

競輪つてこんなこと やっつているんだ!!

どんどん若手を育成して行きたいですね。

——まず、施設を見学されてどのような印象でしたか。

「競輪の補助を受けた施設に来る事はなかなか無いので、このような機会を与えてもらい、本当に自分の中で勉強になったという気持ちです。」

今、競輪のお客さま、競輪に従事する方たち、我々選手が色々な形で社会に貢献していると思いますが、それが二つの形になって改めてこのような施設に還元できるという事を、目で見て分かったというのがうれしいです。また競輪に携わって来れた事を改めて誇りに思えるという気持ちですね。またこの施設で働かれています方達の入園者一人一人に対する細かき気遣い、一人一人に対するケアの気持ちも伝わって来ました。

競輪のお金がこのような施設で使われている事は本当に凄い事ですよ。世の中このような施設がたくさんあるのでしょうか、なかなか我々選手も認識不足のところもあって、きちんと正しく

使われているんだという事がよく分かりましたね。もともと選手も知るべきじゃないのかなと思います」

——宮城支部の今はどのような雰囲気ですか。

「私が選手になったころは、宮城王国と言われた時代は終わって、新人は出てこない冬の時代でした。数年に一人が出てくるような時代だったんです。それではないという事で14年ぐらい前から、若手を積極的に育てるようにしてきた結果、かなり若手が増えてきました。」

福島支部と若手の合宿をたまにしてみたり、うちの方も福島支部に追いつけという気持ちで、若手も頑張っています。

すこし育成とは離れますが、今練習で使用している宮城野原のバンクは宮城国体の頃に作られ、平成2年の宮城インターハイに作り直されたのですが、その後、補修をしていないので、亀裂を埋めたり、夏になると熱くなると路面が浮いてくるのを選手が木槌で叩いて直していま

す。選手丸となって補修をしている姿を見ると、これからの宮城の若手は大丈夫なんだと認識しています。

また今の時期は、北海道、青森、岩手、秋田から冬期移動の選手が来るんですよ。北日本は、冬になると結構寒くなるので、気持ちも沈んでしまうのかなと考えられがちなんです、逆にみんな集まってくるので今まで以上に活気があるという状況ですね。若手に話を聞いてみても、普段練習した事の無い選手と練習できるので、凄く刺激になると話しています」

——現在、宮城支部を引っ張っている選手達は。

「やはり齋藤登志信、菅田吉道、早坂秀悟、今いい感じになってきているが菅田和宏ですね。吉道が頑張っているんで、自分も奮起したんでしょね。」

そういう若手の選手こそ、このような施設を觀てもらいたいですね。そうするとまた競走に違う意味合いが入ってきますよ。自分が頑張る事によってこのように社会に還元できる方法の一つと分かりますからね」

——ファンに一言

「宮城は、野球は楽天、サッカーはベガルタ、バスケットは89ER。みんな盛り上がっています。競輪もここに、宮城は三つがあるんじゃないかと宮城にも競輪選手はいるんだよということをもっともっとアピールして行きたいと思っています」